

権八浅草吾妻橋

GLOBAL-DINING G.D.N.

決算説明会資料

2024年12月期第2四半期（中間期）

株式会社グローバルダイニング（東証スタンダード 7625）

2024年12月期第2四半期（中間期）

I. 業績サマリー

- (連結) 決算ハイライト 4
- 会社別実績概要 5
- (連結) 営業利益（コスト）増減要因 6
- (連結) 貸借対照表の概要 7
- (連結) キャッシュ・フローの概要 8

II. 事業計画サマリー

- (連結) 2024年12月期 通期計画 10

III. 2024年上期の概況

- 2024年上期の主な取り組み 12
- (国内) 業態別業績 14
- (米国子会社) 業態別業績 15

IV. 2024年下期の取り組み

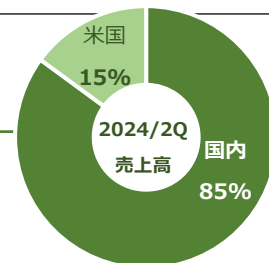
- 2024年下期の取り組み 17
- 新店概要（国内） 18
- 新店概要（米国） 20

【参考資料】

- (連結) 売上高・営業利益推移（四半期） 22
- (国内) 売上高前年対比率 月次推移 23
- (国内) 客数・客単価の前年対比率 月次推移 24
- (連結) 展開コンセプト 25
- (国内) コンセプト別 売上高2Q 5期推移 26
- (国内) コンセプト別 営業利益率2Q 5期推移 27
- (国内) 損益計算書概要 28
- (米国子会社) 損益計算書概要 29
- 会社概要 30
- 注意事項 31

I. 業績サマリー

(連結) 2024年12月期 2Q決算ハイライト



(単位：百万円)	2024年 2Q実績	2023年 2Q実績	前年同期比	対期初計画 進捗率(%)
売上高	5,776	5,387	+7.2%	49.6%
売上原価 ※	4,804	4,579	+4.9%	
売上原価率	83.2%	85.0%	▲1.8pt	
販管費 ※	572	543	+5.5%	
販管費率	9.9%	10.1%	▲0.2pt	
営業利益	399	265	+50.4%	72.1%
営業利益率	6.9%	4.9%	+2.0pt	
経常利益	395	263	+50.3%	71.9%
中間純利益	480	292	+64.5%	89.7%
為替レート(USD/JPY)	161.07円	144.99円		

■ 売上高 7.2% 増

国内ではインバウンド需要が堅調に推移したことや価格改定の浸透により客数・客単価が伸び増収

■ 売上原価率 1.8ポイント 改善

国内では食材価格の高騰、米国ではクラブ営業の縮小等により材料費率は悪化したが、国内増収の影響で売上原価率は改善

※労務費、光熱費、家賃、減価償却費など店舗運営に関わる費用は売上原価に計上。
販管費は主に本部経費

■ 営業利益率 2.0ポイント 増

■ 中間純利益 2.9ポイント 増

繰延税金資産の追加計上(国内業績好調のため)により法人税等調整額▲102.8百万円(利益)を計上

会社別実績概要

国内

(単位：百万円)	2024年 2Q実績	2023年 2Q実績	前年同期比
売上高	4,914	4,451	+10.4%
営業利益	474	290	+63.2%
営業利益率	9.6%	6.5%	+3.1pt
中間純利益	541	311	+74.1%

■売上高 増収 (既存店+10.6%)

インバウンド好調で権八(和食)が増収(前年比+15.8%)

ラ・ボエムやモンスーンカフェ、ゼストキャンティーナなど、その他の主要業態も増収

■営業利益率 3.1ポイント 増

食材価格高騰の影響、全店キャッシュレス化で信販手数料が増加したが、売上好調で増益。

1月～6月単月でそれぞれ営業黒字を達成。
(例年では1月と2月は閑散期のため赤字傾向)

米国子会社

(単位：百万円)	2024年 2Q実績	2023年 2Q実績	前年同期比
売上高	862	936	▲7.9%
営業利益	▲74	▲25	-
営業利益率	▲8.7%	▲2.7%	▲6.0pt
中間純利益	▲61	▲19	-

■売上高 減収

ロサンゼルス¹の経済環境及び店舗のある商業地域の衰退の影響は避けられず、クラブ営業縮小やコーポレートイベント減少等の影響で減収

■営業利益率 6.0ポイント 減

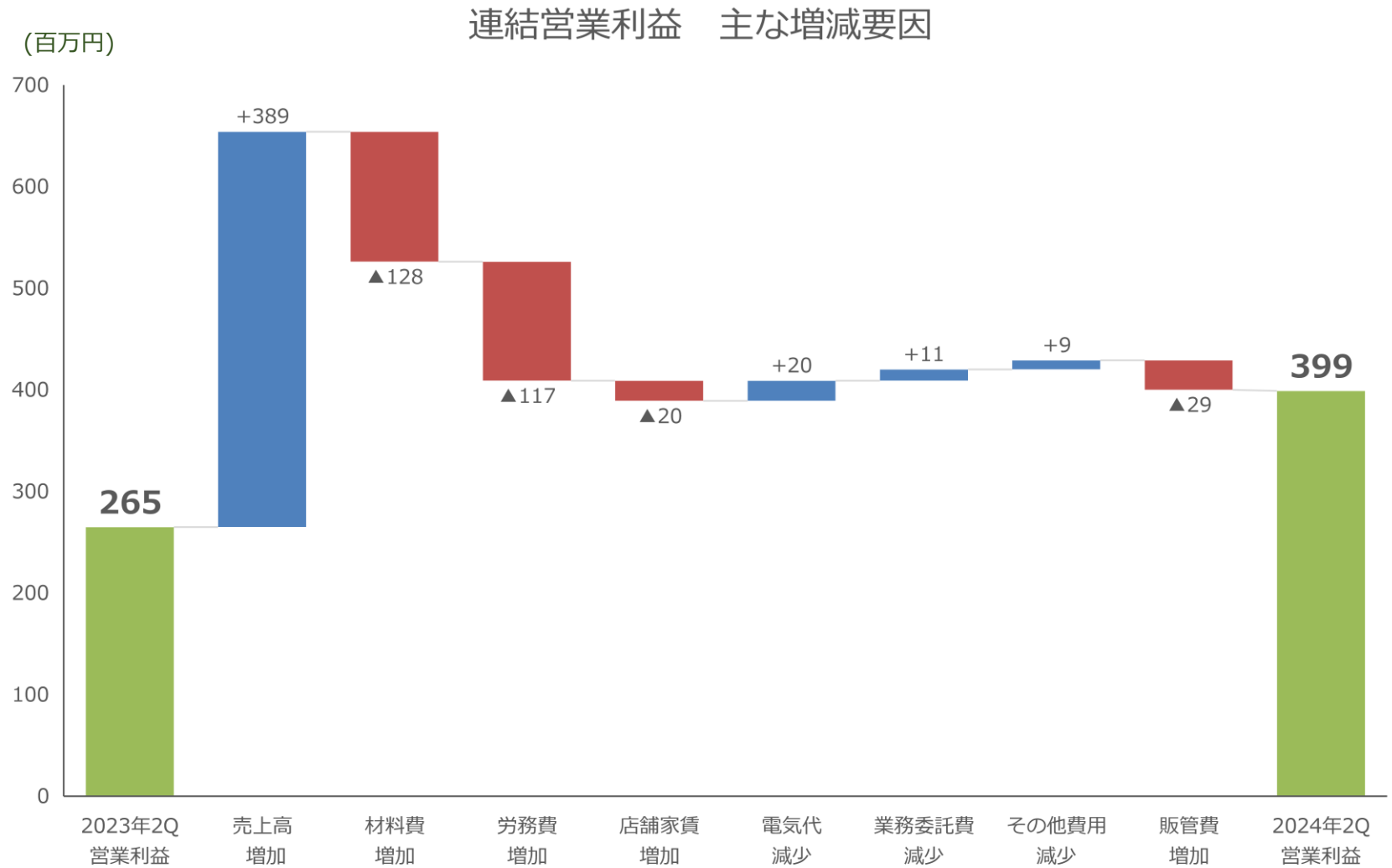
減収の影響が大きく、売上原価率が悪化

新店準備費用の計上などもあり、本部コストを含めた営業利益は赤字に

為替レート(USD/JPY) 161.07円 144.99円

※上記は連結修正前の会社別数値です。

(連結) 営業利益 (コスト) 増減要因



(連結) 貸借対照表の概要

(単位：百万円)	当四半期末 2024年6月末	前期末 2023年12月末	増減
資産合計	9,357	8,560	+796
流動資産	1,948	2,183	▲235
（内 現預金）	(933)	(1,180)	(▲247)
固定資産	7,408	6,377	+1,031
負債合計	4,025	3,972	+52
（内 有利子負債）	(1,904)	(1,722)	(+182)
流動負債	1,405	1,593	▲188
固定負債	2,619	2,378	+240
純資産合計	5,332	4,588	+743
資本金	44	44	+0
資本剰余金	2,144	2,144	+0
利益剰余金	2,597	2,117	+480
為替換算調整勘定	498	244	+254
その他	46	36	+9
負債・純資産合計	9,357	8,560	+796
流動比率	138.7%	137.0%	+1.7pt
自己資本比率	56.7%	53.3%	+3.4pt

■ 流動資産・固定資産

現預金：国内業績の好調や設備資金借入による増加もあったが、有利子負債の返済や新店設備投資による支出で**247百万円減少**

建設仮勘定：国内宿泊複合施設の設備投資、米国新店舗の設備投資により**748百万円増加**

■ 流動負債・固定負債

有利子負債：新規借入による増加、通常返済による減少で**182百万円増加**

■ 純資産

純利益により**利益剰余金が増加**

(連結) キャッシュ・フローの概要

(単位：百万円)	2024年 第2四半期	2023年 第2四半期	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	303	386	▲83
投資活動による キャッシュ・フロー	▲731	▲119	▲611
財務活動による キャッシュ・フロー	152	▲218	+370
現金及び現金同等物 に係る換算差額	28	33	▲5
現金及び現金同等物 の増減額	▲247	82	▲329
現金及び現金同等物 の期首残高	1,180	1,108	+72
現金及び現金同等物 の中間期末残高	933	1,190	▲257

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

国内好業績の影響が大きく、
303百万円のキャッシュイン

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

国内宿泊複合施設と米国新店舗の工事費用、
既存店の工事費用等で731百万円のキャッシュアウト

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

銀行借入金の通常返済、設備資金の為の新規借入等で
152百万円のキャッシュイン

Ⅱ. 事業計画サマリー

(連結) 2024年12月期 通期計画 (修正)

(単位：百万円)	2024年12月期 修正計画	2023年12月期 通期実績	増減	2024年12月期 期初計画
売上高	12,009	11,090	+8.3%	11,650
売上原価	10,030	9,282	+8.1%	9,983
売上原価率	83.5%	83.7%	▲0.2pt	85.7%
販管費	1,154	1,075	+7.3%	1,114
販管費率	9.6%	9.7%	▲0.1pt	9.6%
営業利益	825	732	+12.6%	553
営業利益率	6.9%	6.6%	+0.3pt	4.7%
経常利益	814	727	+11.9%	549
当期純利益	611	847	▲27.9%	535
為替レート (USD/JPY)	155.00円(想定)	141.83円(実績)		145.00円(想定)

■売上高

【国内】

上半期の好調な業績を受け、下半期の予想を上方修正

新規事業の宿泊複合施設は年内ソフトオープン予定だが、売上高は保守的にゼロを見込む

【米国子会社】

上半期減収の影響のほか、新店舗のオープン時期が後ろ倒しとなったため、下半期の予想を下方修正

■売上原価(コスト動向)

【国内】

下半期に宿泊複合施設の開店費用※を一部計上する見込みだが、増収予想のため通期の売上原価率は改善予想

※待機人件費、採用費、備品費等で60.8百万円程度(概算)

【米国子会社】

既存店減収による影響、新店舗の開店費用で悪化予想

■当期純利益

国内好業績により当期中に繰越欠損金の解消が見込まれるため、当期末の繰延税金資産が当初予想よりも減少する見通し

そのため、当期純利益は期初計画を上回る見通しであるものの、前年実績を下回る見通し

Ⅲ. 2024年上期の概況

2024年2Qの主な取り組み（国内）

国内

全店収益化	赤字店の収益改善	<ul style="list-style-type: none"> ■前2Qの赤字店9店舗（閉店1店舗含む）⇒5店舗に減少、3店舗は黒字化 ・愛知県商業施設：統括マネージャー採用・研修、赴任後のフォローを徹底。首都圏に遅れて経済活動回復の中で着実に増収傾向に向かう。1店舗（モンsoon）のみ赤字が残る状態に。 ・ウエディング、ベーカリー2店舗赤字大幅縮小：ウエディングは需要回復、バルティザン（ベーカリー小売部門）は商品力強化（価格・品揃え増）により認知広がり増収。 ・ディナー店2店舗苦戦：「ステラート」「タブローズ」とともにメニュー改善と人事に注力。
	競争力強化	<ul style="list-style-type: none"> ・負担軽減とサービス集中のため、完全キャッシュレス決済化を推進（商業施設を除く） ・ホスピタリティ向上のため7つの行動指標に絞った評価を徹底 ・動画コンテストの実施による各店の魅力あるSNS発信力向上 ・食材原価、人件費、光熱費等の高騰に伴い納得感ある価格改定と商品構成に ・仕入れ価格高騰や当社限定戦略商品の開拓に向けて海外現地調達を推進
人材確保と教育		<ul style="list-style-type: none"> ・マネジメントポジションの積極的な社外採用推進 ・各種コンテスト優秀者に報奨金や海外研修等を実施、参加意欲醸成・社内人材発掘へ ・マニュアルのデジタル化を推進、アルバイトスタッフが学びやすい環境を整備
成長投資		<ul style="list-style-type: none"> ・那須複合施設の工期に遅れが発生（ユニーク・緻密デザイン故の）するも鉄骨組立完了 ・都内での1店舗出店内定

（参考）2024年第2四半期累計 赤字店一覧

	店舗名	2024年 第2四半期累計		備考
		売上高	営業利益 (販管費配賦前)	
1	タブローズ (代官山)	29,526	▲21,940	
2	ステラート ※旧カフェラ・ポエムイベントハウス	10,965	▲14,495	※1
3	ウエディングサロン	24,690	▲3,869	
4	バルティザン ブレッドファクトリー (南青山) ※製造部門除く	21,617	▲736	※2
5	モンsoonカフェ ららぽーと愛知東郷	34,857	▲158	

(単位：千円)


（参考）前年同四半期累計 赤字店一覧

店舗名
1 タブローズ (代官山)
2 カフェラ・ポエム イベントハウス (白金台) ※当期は店名をステラート
3 ウエディングサロン
4 ラ・ポエム パスタフレスカ 名古屋則武新町 ※閉店
5 モンsoonカフェ ららぽーと愛知東郷
6 ゼストキャンディーナ お台場
7 ゼストキャンディーナ 代官山
8 バルティザン ブレッドファクトリー (南青山)
9 ラ・ポエム パスタフレスカ RAYARD Hisaya-odori Park (名古屋)

※3店舗黒字化

米国（カリフォルニア州）

治安悪化、雇用・税制面に課題を感じる中での展開

<p>『ラ・ボエム』 (ウエストハリウッド地区)</p>	<ul style="list-style-type: none">・金曜日にライブミュージックを導入し好評、増益に寄与・最低時給\$19.08の更なる上昇を防ぐため商工会や他店と共同意見表明し、上昇延期を実現・自治体から恒久的な屋外営業の承認を受け、必要設備の完備に向けたデザイン完了
<p>『1212』 twelve twelve (サンタモニカ地区)</p>	<ul style="list-style-type: none">・公共エリア（店舗前の遊歩道）での屋外営業の賃料を交渉して無料に・深夜営業縮小による経費削減・OpenTable の“Diners’ Choice ”を受賞 <div data-bbox="579 671 714 799"></div> <p>OpenTable（予約・口コミサイト）は、レストラン利用者のフィードバックをもとに優れたレストランをリスティングしており、当社の『1212』が、近隣エリアの中で最高のレストランの1つとして選ばれ、受賞に至りました。</p>
<p>開業準備『セテチェント』 (ダウントウンLA地区)</p>	<ul style="list-style-type: none">・新店開業準備に注力、インフレや自治体からの追加工事要請で工期に遅れ発生・ガーデンダイニング（屋外）でのライブミュージック&リカーの営業許可を申請（下期承認）

(国内) 業態別業績

(単位：百万円)			2024		2023		前年
			2Q実績	(利益率)	2Q実績	(利益率)	同期比
ラ・ボエム	14 店舗 (前年▲1)	売上高	1,404		1,287		+9.1%
		営業利益	240	17.1%	160	12.5%	+4.6pt
ゼスト (タコファナ)	5 店舗 (前年±0)	売上高	213		193		+10.1%
		営業利益	23	11.1%	4	2.2%	+8.9pt
モンスーン カフェ	9 店舗 (前年±0)	売上高	992		918		+8.0%
		営業利益	158	16.0%	120	13.1%	+2.9pt
権八	7 店舗 (前年±0)	売上高	1,619		1,399		+15.8%
		営業利益	418	25.9%	322	23.1%	+2.8pt
Dinner	5 店舗 (前年+1)	売上高	466		446		+4.5%
		営業利益	41	9.0%	52	11.7%	▲2.7pt
那須フードコート その他	3 店舗 (前年±0)	売上高	217		205		+5.9%
		営業利益	2	1.2%	22	10.9%	▲9.7pt
本部販管費	-	売上高	-		-		-
		営業利益	▲411	-	▲391	-	-
合計	43 店舗 (前年±0)	売上高	4,914		4,451		+10.4%
		営業利益	474	9.6%	290	6.5%	+3.1pt

(店舗数前2Q末増減)

・「ラ・ボエムペントハウス」が「ステラート」(婚礼中心)に戻り、ラ・ボエム▲1 Dinner+1に
・2023年2Q実績は上記組み換え済の数値を記載しております。

(注) フランチャイズ店は上記店舗数に含めておりません。

客数+4.0% 客単価 +6.4%

■ラ・ボエム

円安やオリーブ油・パスタ等の高騰でラ・ボエムは一番大きな影響を受けるものの、価格調整が浸透したことや愛知県の2店舗が伸長し、増収増益。

■ゼスト(タコファナ※)

小型タコス専門店が原材料費や労務費も抑えながら運営可能な業態に成長、営業利益大幅改善。

■モンスーン

首都圏商業施設に遅れて愛知県の1店舗が伸長。

■権八

インバウンド需要が引き続き好調で、全体の増収増益を牽引。

■Dinner

レガート、ラウンジ(生演奏&シガーバー)、リグニスが好調を維持し増収となるも、「タブローズ」や「ステラート」の赤字が影響し利益率減少。

■那須フードコート&その他

那須フードコートは昨年改修工事で休業があった分増収、黒字化。その他において新店(複合施設)費用が計上されたが、なんとか黒字を維持。

■本部販管費

全店キャッシュレス決済(商業施設除く)による信販料増加。

(米国子会社) 業態別業績

(単位：百万円)		2024		2023		前年
		2Q実績	(利益率)	2Q実績	(利益率)	同期比
ラ・ボエム	売上高	429		398		+7.9%
	営業利益	53	12.4%	41	10.4%	+2.0pt
1212	売上高	433		538		▲19.5%
	営業利益	4	1.0%	61	11.5%	▲10.5pt
Settecento (新店準備中)	売上高	0		0		-
	営業利益	▲19		▲7		-
本部販管費	売上高	-		-		-
	営業利益	▲113		▲120		-
合計	売上高	862		936		▲7.9%
	営業利益	▲74	▲8.7%	▲25	▲2.7%	▲6.0pt
為替レート(USD/JPY)		161.07円		144.99円		

【参考】 (単位：千USドル)		2024		2023		前年
		2Q実績	(利益率)	2Q実績	(利益率)	同期比
ラ・ボエム	売上高	2,666		2,745		▲2.9%
	営業利益	330	12.4%	284	10.4%	+2.0pt
1212	売上高	2,688		3,713		▲27.6%
	営業利益	26	1.0%	425	11.5%	▲10.5pt
Settecento (新店準備中)	売上高	0		0		-
	営業利益	▲118		▲54		-
本部販管費	売上高	-		-		-
	営業利益	▲704		▲829		-
合計	売上高	5,355		6,458		▲17.1%
	営業利益	▲465	▲8.7%	▲174	▲2.7%	▲6.0pt

■ラ・ボエム

連結取込み時の超円安進行で円ベースでは増収。

ドルベースでは店舗のあるロサンゼルスが経済環境が悪化し減収となったものの、コストコントロールをしながら金曜のライブミュージック導入、ガーデンダイニングの魅力維持により、営業利益率は改善。

■1212 (twelve twelve)

ロサンゼルスが経済環境及び店舗のある商業地域の衰退の影響は避けられず、クラブ営業やコーポレートイベントの減少が響き、大きく減収減益。

【参考】為替の影響を排除したドルベースの業績

IV. 2024年下期の取り組み

国内注カポイント

● 全店収益化

- ✓ 赤字が続くディナー店のメニュー開発と業績改善
- ✓ 「ステラート」は新メニューで9月にリバイバルオープン予定

● 競争力強化

- ✓ ホスピタリティ強化に向け、全店で7つの行動指標の評価向上を目指す
- ✓ 食材の海外現地調達による当社戦略商品の開拓、差別化の推進

● 人材確保と教育

- ✓ 企業理念の浸透
- ✓ 価値観を共有できる多様な人材の確保

● 成長投資

- ✓ 那須複合施設の建築工事引き渡し（11月）、年内ソフトオープンを計画
- ✓ 都内1店舗の出店準備本格化（来年オープン予定）

米国注カポイント

● 厳しいビジネス環境下のカリフォルニア州でオペレーション効率化と差別化に注カ

- ✓ 「1212」業態のカジュアル化
- ✓ 「ラ・ボエム」恒久的な屋外営業の承認条件に沿った環境整備実施

● 新店開業

- ✓ 10月グランドオープンに向けて工事進捗管理の徹底と採用強化
- ✓ 広いガーデンパティオ、屋外でのライブミュージック・リカー営業の許可を強みとした魅力的な店舗造りと集客

【新店概要】 国内 ホテル・飲食複合施設

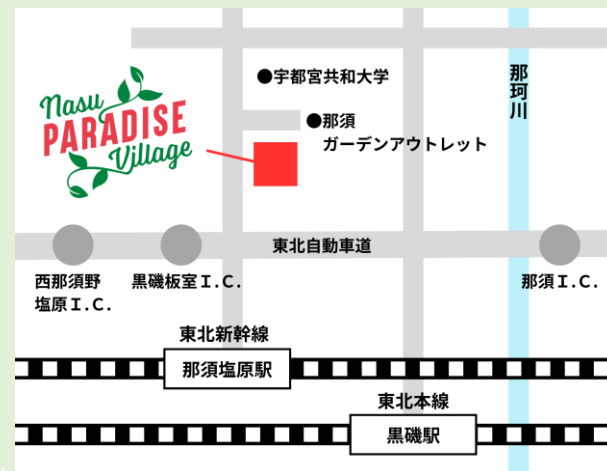
(施設名称)

那須 パラダイス ヴィレッジ NASU PARADISE VILLAGE



施設イメージ（正面入口側）

出店場所：栃木県那須塩原市
敷地面積：10,779㎡（3,260.5坪）
建物：鉄骨2階建1棟
延床面積2,894㎡（877坪）（予定）
施設概要：1階にレストラン・カフェ・フードコート・小売店等
2階にカジュアルホテル（37室）
想定年商：施設全体で1,000百万円（グランドオープンの翌期）



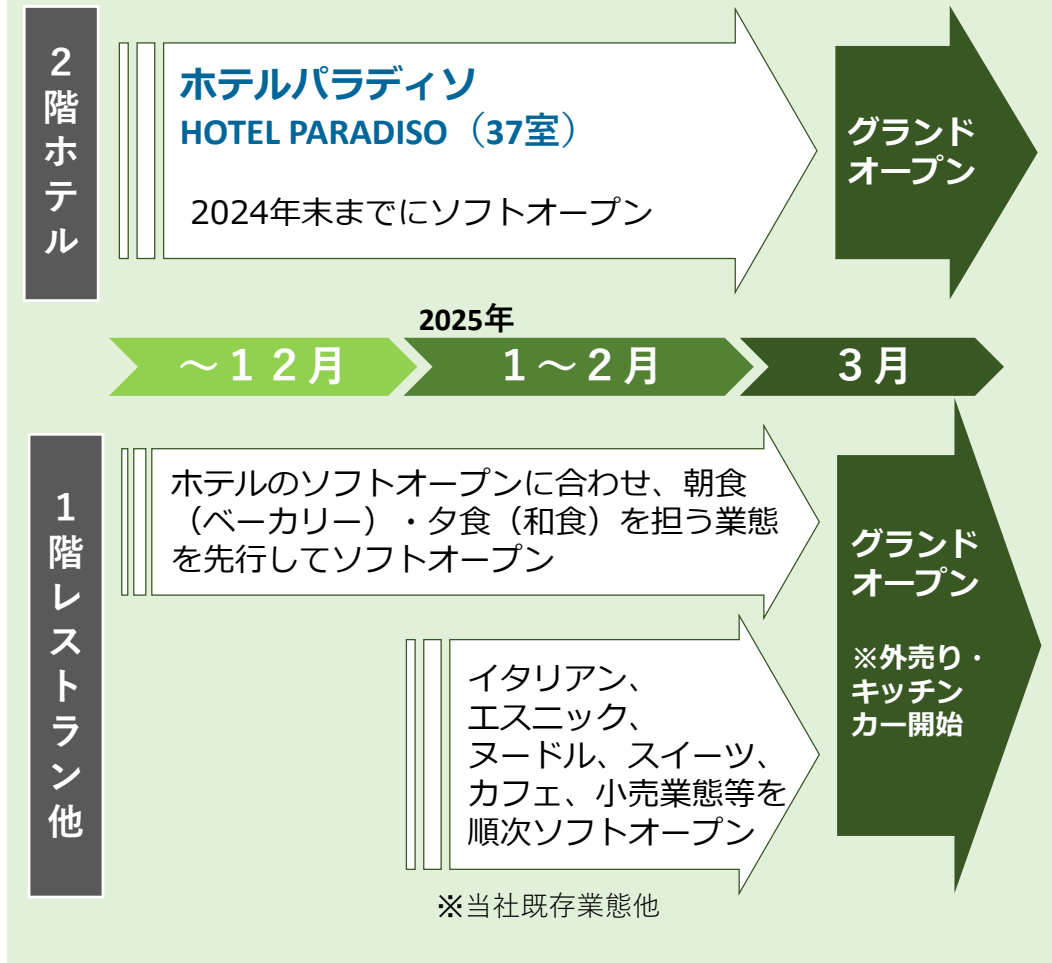
現地



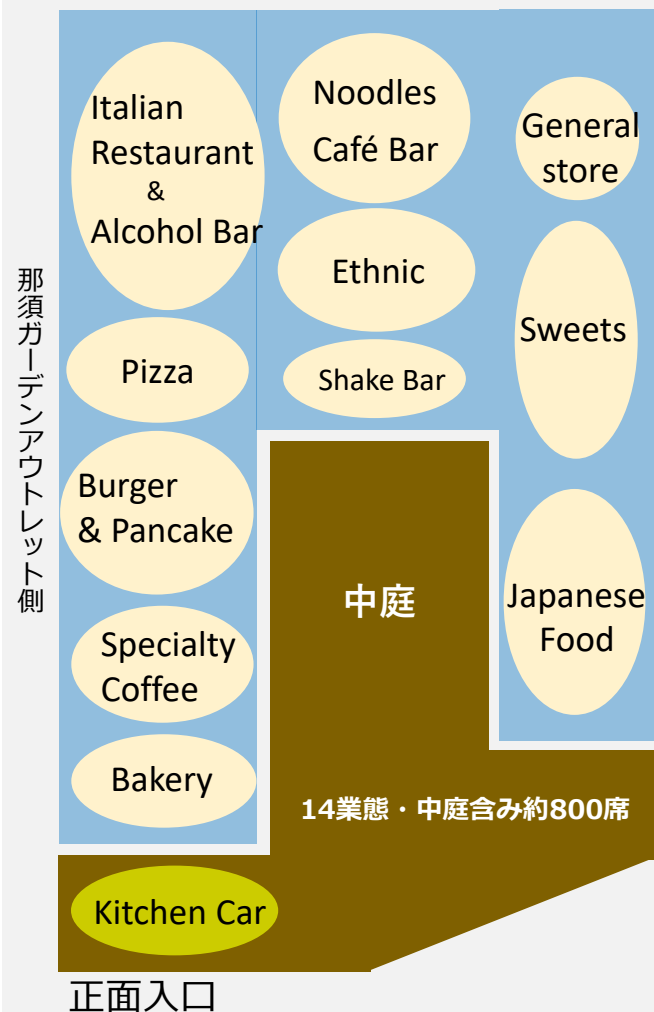
2024年7月中旬撮影

那須パラダイスヴィレッジ NASU PARADISE VILLAGE

～開業スケジュール（予定）～



1階業態MAP (予定)



【新店概要】 米国 『セテチェント (Settecento) 』

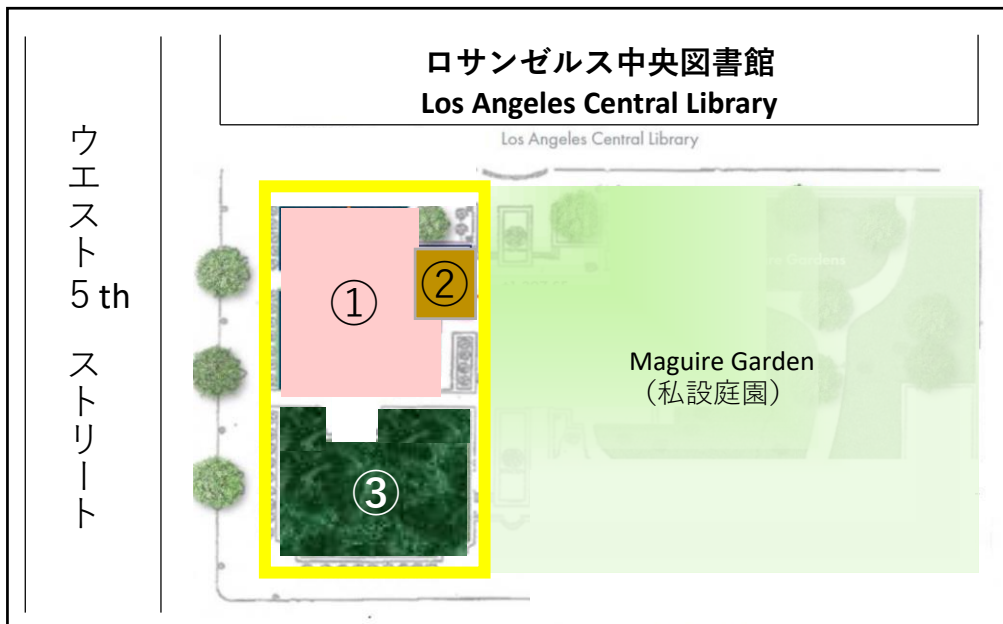
カリフォルニア州ロサンゼルス郡 ダウンタウン地区

※中心部のオフィス・ビジネス街

ダウンタウンLAの高層ビル群に佇む
憩いのガーデンダイニング



施設イメージ



敷地面積：敷地 6,146 sf (173坪) ※③ガーデン含まず、建物 4,167sf (117坪) ※1F 89坪、B1 (厨房) 28坪

開業時期：2024年9月ソフトオープン、10月グランドオープンを予定

施設概要：①屋内、②テラス、③ガーデンパティオの3スペースで営業

広いパティオを活かしたガーデンダイニングが魅力のイタリアン業態を計画

席数：①屋内66席、②③ガーデンテラス144席、計210席 (予定)

立地特性：ランドマークとなるロサンゼルス中央図書館 (駐車場あり) や私設庭園に隣接、周辺にはオフィスビル、ホテル、高速道路入口あり。

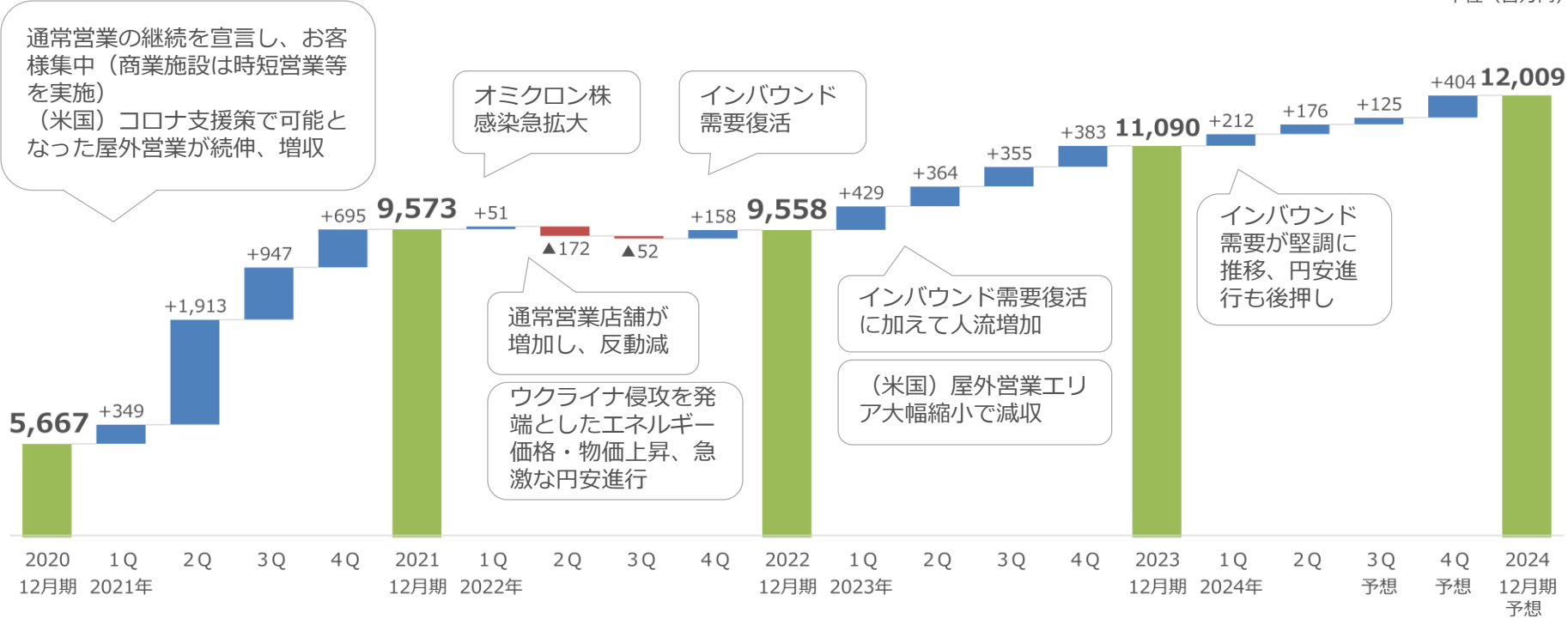
參考資料

連結売上高四半期推移

連結売上高推移

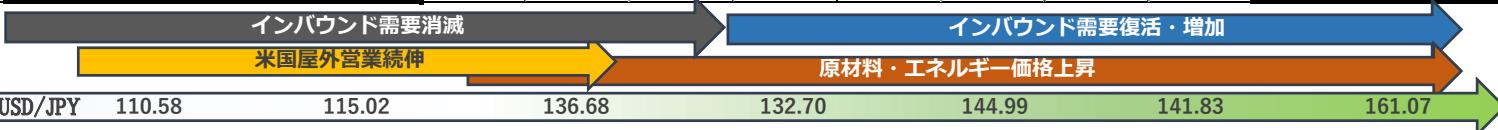
(前年同四半期増減)

単位 (百万円)



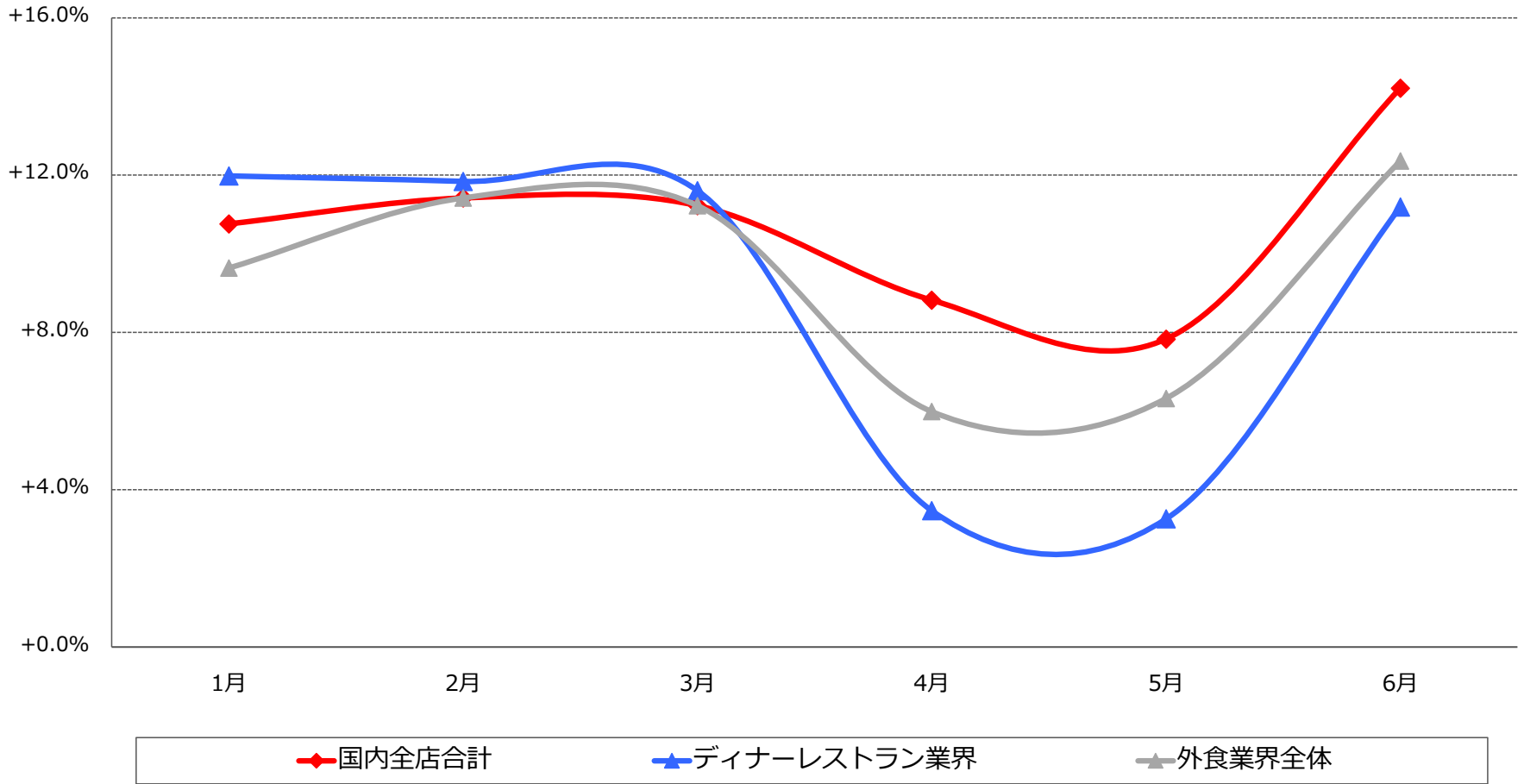
参考：四半期連結業績変動 単位 (百万円)

四半期	2021年12月期実績				2022年12月期実績				2023年12月期実績				2024年12月期予想			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q 実績	2Q 実績	3Q 予想	4Q 予想
売上高	2,047	2,667	2,506	2,351	2,099	2,494	2,454	2,509	2,528	2,858	2,809	2,893	2,741	3,035	2,934	3,298
営業利益	196	263	206	61	▲44	66	▲16	219	74	190	143	323	146	252	147	278
店舗数	43	42	44	45	46	46	46	46	45	45	45	45	45	45	45	47



(国内) 2024年2Q 売上高前年対比率 月次推移

※業界全体の数値は、一般社団法人日本フードサービス協会のデータを参考にしております。



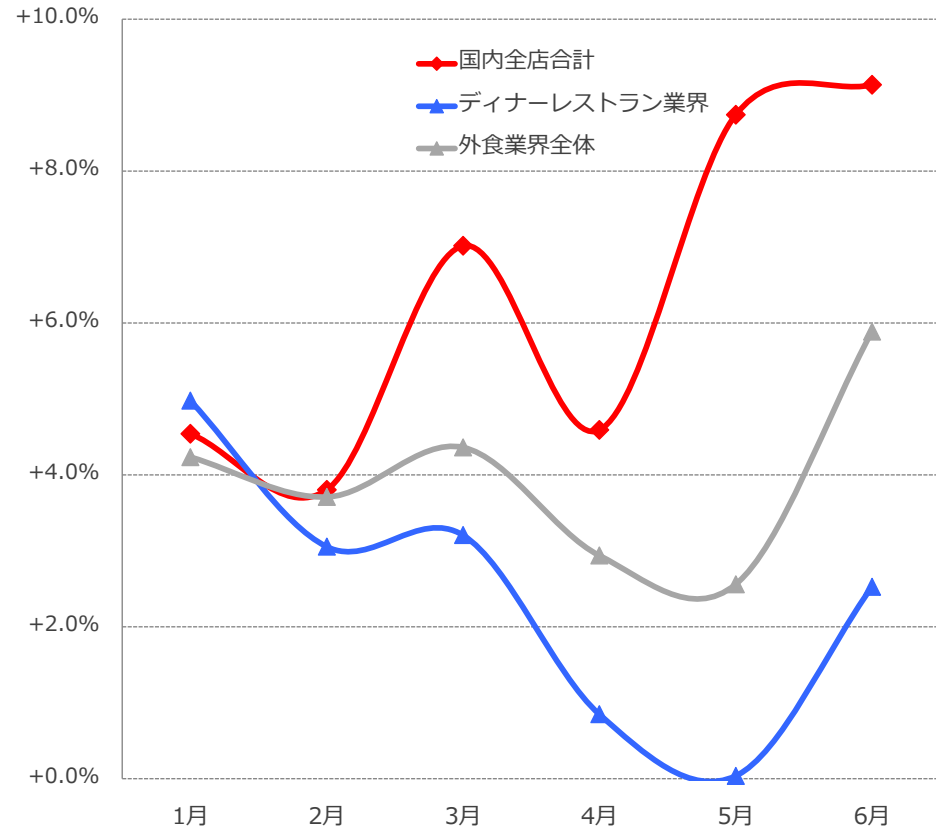
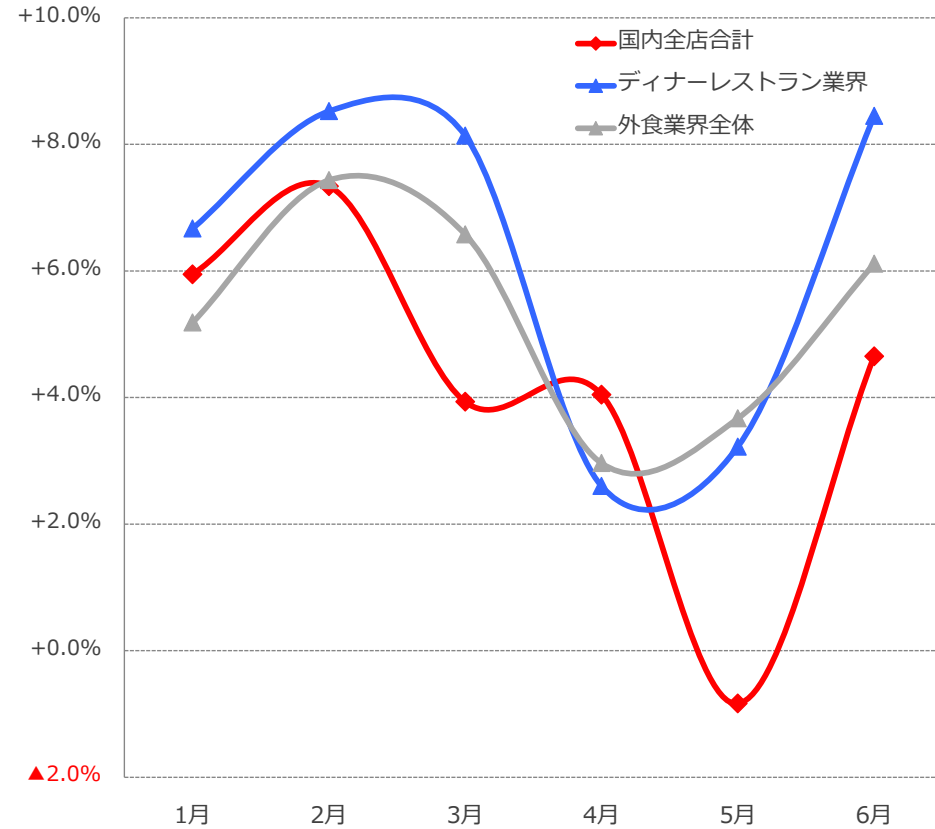
2024年12月期 第2四半期
全店 **+10.4%**

※2024年2Qにおいて出退店なし

(国内) 2024年2Q 客数・客単価の前年対比率 月次推移

客数

客単価

















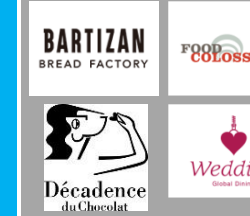

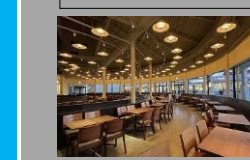
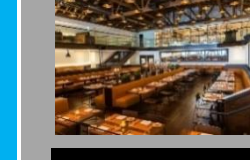
2024年12月期 第2 四半期
全店 +4.0%

2024年12月期 第2 四半期
全店 +6.4%

※業界全体の数値は、一般社団法人日本フードサービス協会のデータを参考にしております。

(連結) 展開コンセプト

計45店舗 (2024.6月末)

カフェ ラ・ボエム	モンスーン カフェ	権 八	ゼスト キャンディーナ	ディナー店	※ F C ・その他 業 態
   イタリアン	   エスニック	   創作和食 & 寿司	   テックスメックス	 海外 (米国)    6店舗	 海外 (米国)    4店舗
14店舗	9店舗	7店舗	5店舗	6店舗	4店舗
1,404百万円	992百万円	1,619百万円	213百万円	895百万円	650百万円
24%	17%	28%	4%	16%	11%

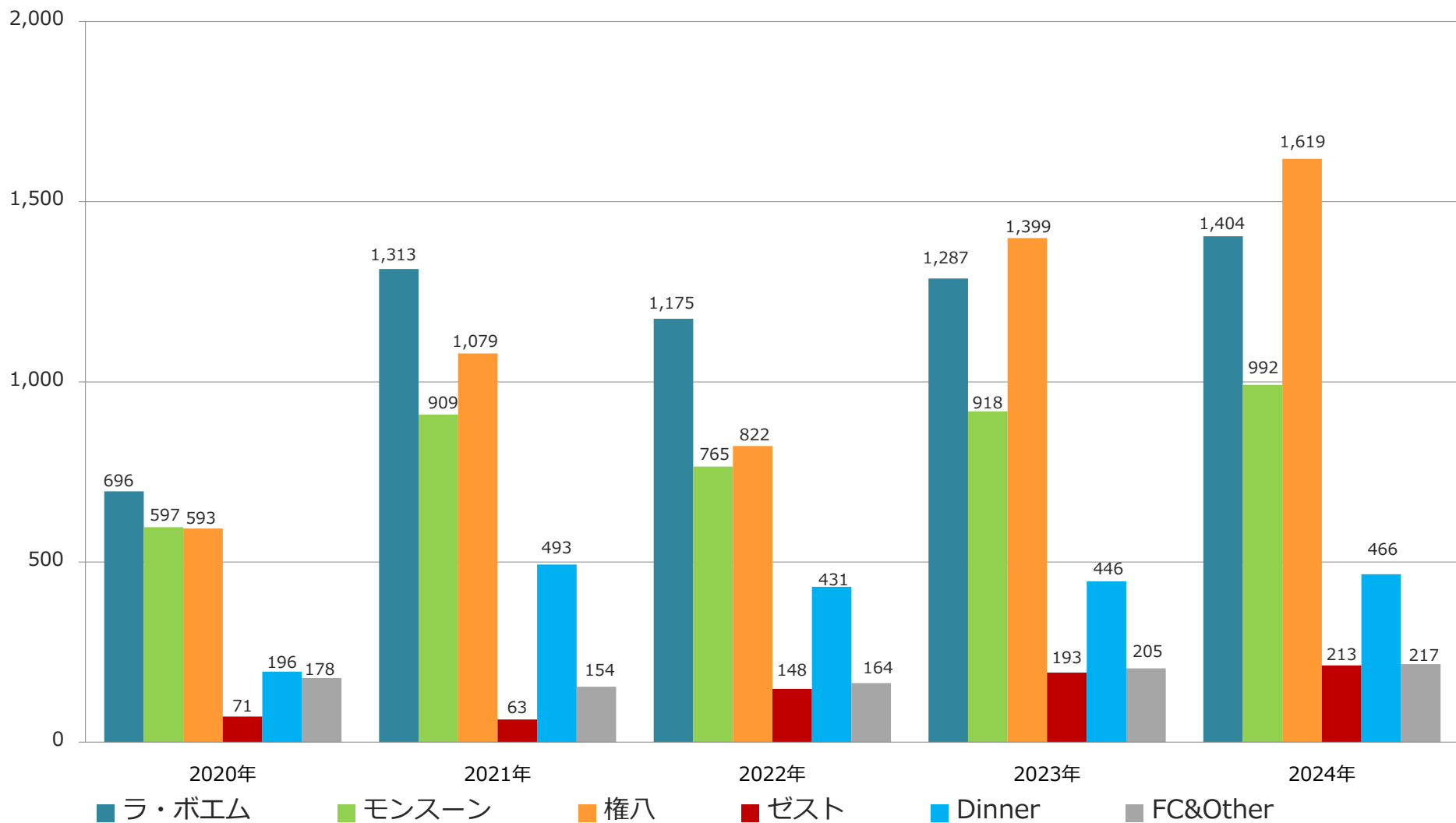
※上記金額&シェアは、2024年12月期第2四半期(中間期)の連結売上高とそのシェア(%)を記載しております。

※コンセプトの「FC」は、「FOOD COLOSSEUM(フードコート業態)」の略です。

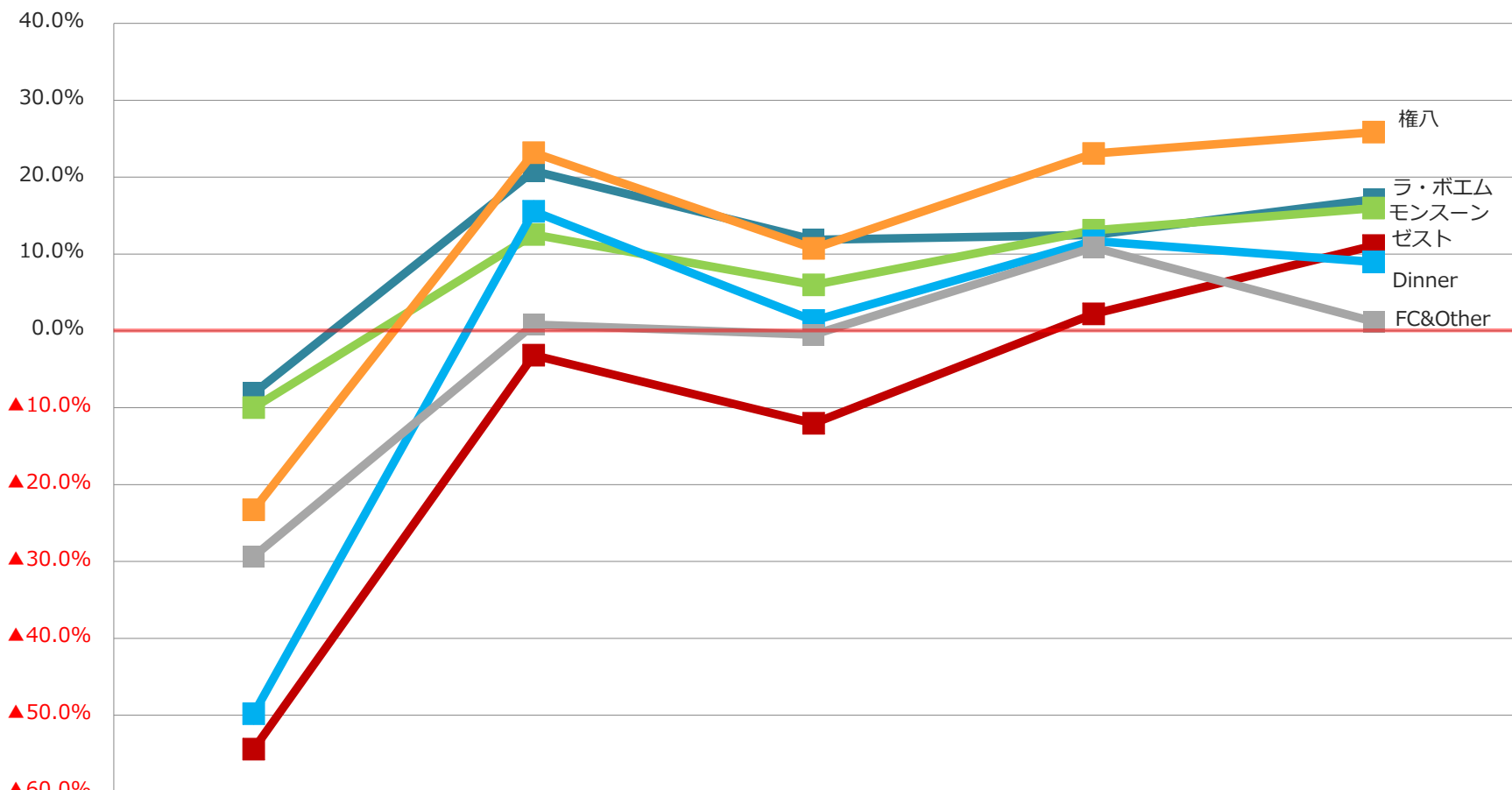
※「FC・その他業態」に含まれる「ウエディングサロン」「フランチャイズ店」は店舗数に含めておりません。

★『権八』(西麻布店)は、小泉元総理とプッシュ元米大統領との会談場所として、また映画「キルビル」の舞台のモデルとして、広く外国人に認知されている業態です。

(国内) コンセプト別売上高 2Q (中間期) 5期推移



(国内) コンセプト別営業利益率 2Q (中間期) 5期推移



	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
ラ・ボエム	▲8.1%	20.8%	11.8%	12.5%	17.1%
モンスーン	▲10.0%	12.5%	6.0%	13.1%	16.0%
権八	▲23.3%	23.2%	10.7%	23.1%	25.9%
ゼスト	▲54.4%	▲3.2%	▲12.0%	2.2%	11.1%
Dinner	▲49.8%	15.6%	1.3%	11.7%	9.0%
FC&Other	▲29.3%	0.8%	▲0.5%	10.9%	1.2%

(国内) 損益計算書概要

2024年12月期 第2四半期		合計	ラ・ボエム	ゼスト (タコファナ)	モンスーン カフェ	権八	Dinner	那須フードコー ト・その他	本部 販管費
売上高	4,914		1,404	213	992	1,619	466	217	-
売上原価	3,980		1,142	185	816	1,182	423	212	17
売上総利益	933		262	28	175	436	42	5	▲17
販管費	459		21	4	17	18	1	3	393
営業利益	474		240	23	158	418	41	2	▲411
営業利益率	9.6%		17.1%	11.1%	16.0%	25.9%	9.0%	1.2%	-
期末店舗数	43		14	5	9	7	5	3	-
2023年12月期 第2四半期		合計	ラ・ボエム	ゼスト (タコファナ)	モンスーン カフェ	権八	Dinner	那須フードコー ト・その他	本部 販管費
売上高	4,451		1,287	193	918	1,399	446	205	-
売上原価	3,737		1,102	183	781	1,054	390	179	46
売上総利益	713		185	10	137	344	56	25	▲46
販管費	422		24	6	16	22	3	3	345
営業利益	290		160	4	120	322	52	22	▲391
営業利益率	6.5%		12.5%	2.2%	13.1%	23.1%	11.7%	10.9%	-
期末店舗数	43		15	5	9	7	4	3	-

(単位：百万円)

※Dinner：「タブローズ」「タブローズラウンジ」「カフェ レガート」「リグニス」「ステラート」

※その他：「デカダンスデュ ショコラ」「バルティザン ブレッド ファクトリー」(小売)の他、ウエディングサロンの売上高や海外フランチャイズ店からのロイヤルティ収入、新店(複合施設)費用が含まれます。なお、ウエディングサロンやフランチャイズ店は店舗数に含めておりません。

(店舗数前2Q末増減)

- ・「penthouse」が「ステラート」(婚礼中心)に戻り、ラ・ボエム▲1 Dinner+1に
- ・2023年2Q実績は上記組み換え済の数値を記載しております。

(米国子会社) 損益計算書概要

2024年12月期 第2四半期	合計	ラ・ボエム	1212 (twelve twelve)	Settecento	本部販管費
売上高	862	429	433	0	-
売上原価	824	376	428	19	0
売上総利益	38	53	4	▲19	0
販管費	113	0	0	0	113
営業利益	▲74	53	4	▲19	▲113
営業利益率	▲8.7%	12.4%	1.0%	-	-

2023年12月期 第2四半期	合計	ラ・ボエム	1212 (twelve twelve)	Settecento	本部販管費
売上高	936	398	538	0	-
売上原価	841	356	476	7	0
売上総利益	95	41	61	▲7	0
販管費	120	0	0	0	120
営業利益	▲25	41	61	▲7	▲120
営業利益率	▲2.7%	10.4%	11.5%	-	-

(単位：百万円)

※上記は業績管理用の決算整理前数値です。

会社概要

社名	株式会社グローバルダイニング (GLOBAL-DINING, INC.)		
本社所在地	東京都港区南青山七丁目1番5号		
設立	1973年10月5日		
資本金	44百万円		
事業内容	首都圏を中心とするレストラン経営		
代表者	代表取締役社長 長谷川 耕造		
従業員数	単体170名 (臨時雇用者664名)	連結186名 (臨時雇用者745名)	※2024年6月末時点
子会社	GLOBAL-DINING, INC. of CALIFORNIA (LAで2店舗運営)		
主要取引銀行	三菱UFJ銀行、三井住友銀行、静岡銀行、みずほ銀行、日本政策金融公庫、商工中金		

上場市場	東京証券取引所 スタンダード市場【コード：7625】		
上場日	1999年12月7日		
発行済株式総数	10,385,800株		
株主数	3,461名	※2024年6月末時点	
事業年度	1月1日から12月31日まで		
定時株主総会	毎年3月		
株式の売買単位	100株		

website : <https://www.global-dining.com/>

※2024年7月末時点

注意事項

- ・本資料は情報提供を目的としており、当社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。
- ・本資料における将来に関する事項は、本資料の発表日現在において入手可能な情報および業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日における仮定を前提としております。
- ・本資料の全部または一部の無断複製や転用等をご遠慮ください。

Disclaimer

- ・ This document is intended to provide information of our company only. This information is not intended to solicit buying or selling our company's stock.
- ・ This document contains forward-looking statements which represent the company's expectations or beliefs concerning future events. The company's actual results could differ materially from those stated or implied in the forward-looking statements herein.
- ・ Please refrain from replicating or diverting this document without prior approval from Global-Dining, Inc.



<資料に関するお問い合わせ>
総務管理グループ
(IR) 050-5444-9868
stock@global-dining.com